今週の
倫理

2025. 4. 5〜4. 11

4月のテーマ　|　自己革新

1432号

相手を変えようとせず 自分自身を省みる

福島県のSさんは、三十七歳の時、父親から会社を継ぎました。当時会社は債務超過に陥っている状況で、さらに離職率は高く、社員による不祥事や事故が頻発していたのです。そこでSさんは、なんとかその状況を打破しようと、社内の制度を整え、社員の監視体制を強化したり、社内研修の機会を増やし教育に力を入れたりしてはみたものの、改善の兆しは見えません。

いつしかSさんは、上手くいかない苛立ちを社員に向けるようになりました。社員との対立関係は一層深まり、時には口論になってしまうこともあったのです。

そんな時、信頼する友人から倫理法人会を紹介され、経営者モーニングセミナーに足を運びました。その中で『万人幸福の栞』の一節を目にし、驚愕しました。

「親子、夫婦、交友、隣人、すべてがわが鏡であって、わが心のままに変って行く」

「人を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変われればよい」と書かれていました。私は、自分が変われば、状況を変えることができるかもしれないと思えたのです。

それまでは思い通りにならない社員を責め立て、失敗した社員を叱責していたSさんでしたが、まずはそうした言動を戒め、社員を責めることをやめました。

ある社員は、度々人間関係のトラブルを起こしていました。その都度、注意はするものの聞く耳をもってくれません。さらに彼は、仕事を依頼しても「忙しいからできません」と断るのです。その態度に腹を立て、これまでは頭ごなしに叱責していましたが、彼が変わる気配はありませんでした。

ところが、まずは自分が聴く耳をもとうと話を聴くよう努めると、これまで無かった報連相をしてくるようになり、頼んだことも受けてくれるようになったのです。また、社員を変えるために行なっていた社内研修を一旦やめ、自分が勉強をしようと純粋倫理を学び人間力を磨くようになると、自然と社員の方から、研修を受けたいという声があがるようになりました。

徐々に社員と良好な関係が築けるようになり、社員の仕事に対する姿勢が変わっていきました。結果、三十年ぶりに最高売上を更新したのです。その後、「健康経営優良事業所」として認定され、新聞に掲載されるなど、これまで到底考えられないような会社に変わっていったのです。

それまで経営状況の悪化は「社員のせい」だと思っていたSさんでしたが、この経験を通じて会社を取り巻くあらゆる出来事は、全てリーダーである自分がもたらしていたのだと知ったそうです。

鏡に映る自分の姿を見て、顔の汚れに気づいた時、鏡を拭く人はいません。ところが私たちはそれに近い事をしてしまうことがあります。何か問題が起きた時や思い通りにならない時、相手を変えようとする心を捨てて、自分自身を省み、改める実践を心掛けたいものです。自分が変わった分だけ、きっと周囲にも変化が訪れるはずです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局